

琉球大学学術リポジトリ

知っておきたい着物の知識

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡口, 文子, Toguchi. Fumiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21247

知っておきたい着物の知識

去った3月は嬉しい卒業式、終了式でお子様始め御家族の皆様には待遠しかった月ではなかったでしょうか。大学でも目のさめるばかりの美しい和服姿の女子学生、御出席のお母様お姉様方にも着物姿が多く見られましたし、小、中、高校でも、一般的に和服が利用されるようになって参りましたので着物についてまとめてみました。

I 礼 装

結婚式は私達の生活では最大の盛装と考えその日のために立派な衣裳を作ります。結婚式に招ば

れる親戚、友人の客方でも、当日の衣裳が話題になるほどです。

近年は国際的社交が盛んになり、外交儀礼の夫人同伴、パーティーの種類、昼、夜の時間によっても服装が異りましょう。

正装には黒留袖(正式の晴礼着、ミセスの場合)色紋つきで、若い方は紋入りの訪問着が選ばれます。正式の場合は白えりで長じゅばんも白にします。気をつけておきたいことは紫色です。紫は高貴な色としてあこがれの色ですが、西洋では喪の色といわれているようです。

Ⅱ 紋の種類

紋の種類は数千とあります。石持と云って丸く図の中に書かれているものと、陽（ひなた）おもと、陰（かげ）と呼ぶのがあります。この陽、陰の中でも細輪（中陰）などといって線の細さ、太さで区別されています。他に縫紋があり刺し方も糸の濃淡や金銀の交縫い等いろいろの刺し方があり、着物のはで、地味によってもかえて行きます。紋には五つ、三つ、一つ紋があり、染め抜きにします。黒の式服には五つ紋、色紋つきには三つ紋で、軽い訪問着用には一つ紋をします。色紋つきに紋があり過ぎても好ましくありません。訪問着になりますと抜き紋より縫い紋の方が自然に感じられますし、紋の大きさも女もので2.5cmといわれていますが、総模様の際は少し大きめの紋にした方が美しく格好がよいようです。

Ⅲ 正、略式

正装が五つ紋であれば略装は三つ紋か一つ紋、正装が染抜きならば略は縫い紋といった扱いで正

略がつけられていました。色柄では地風のよいものでうす地色もの、若い方々は地柄もはでで白地が多くてもよいのですが、既婚者は特に地風に気をつけて選んだ方がその人柄がうかがわれるようです。特に色無地の場合は注意しましょう。紋も染抜きしますと重々しさが感じられますので若いミセスなどは地紋のあるものを選びましょう。喪服の場合は普通五つ紋か三つ紋の抜き紋になります。忌明けや法事に着る色喪服は一つ紋の抜き紋です。これに帯を変えますと慶事にも使えます。

Ⅳ 晴れ着

晴れ着とはどこからが礼装の晴れ着なのか、どれからは普段着だと分けることは困難なことです。それぞれの生活環境の違いで自分では晴れ着でも人によっては普段着のこともありますので、礼装、晴れ着の区別は各人各様といえることでしょう。一般に礼装とは訪問着という裾模様式のもので、黒留袖の他に、うす色地の色紋付で紋は一つ抜き紋か縫い紋付等があります。色無地やしほ

布地の種類と用途

素材	生地	布の種類	用途	産地
絹	染生地	羽	裏地、帯地、紋服	福井、五泉
		縮緬	正装、訪問、外出用	長浜、峰山
		輪	訪問、外出用	丹後、十日町、小松
		子	無地、紋付、外出用	岐阜
		紗	正装、訪問、外出用	峰山、福井
	織り生地	お召	夏、正装、訪問用	西陣
		八銘	夏、外出着用	十日町、西陣
		丈仙	略訪問用	
		島	外出着用	西陣、桐生、十日町、米沢
		結塩	外出着用	
綿	紺縮	大島	外出、街着用	八丈島、秋田
		結塩	外出、街着用	伊勢崎
		白石	外出、街着用	奄美大島、鹿児島大島、村山
		石下	外出、街着用	結城
		白地	外出、街着用	塩沢
	縞縮	白地	外出、街着用	白山
		縞縮	普通着用	石下
		縞縮	普通着用	大和、久留米
		縞縮	普通着用	久留米、薩摩、伊予、備後、琉球
		縞縮	普通着用	愛知県下、兵庫県下
毛	ウール	普通着用	館林、徳島	
	ウール	普通着用		
	ウール	普通着用	西陣、伊勢崎、八王子、足利、	
	ウール	普通着用	館林、米沢、桐生	
	ウール	普通着用		
麻	上縮	夏、外出着用	小千谷、宮古、能登	
	縮	夏、普通着用	小千谷、能登	
	縮	夏、外出着用	沖繩	
化繊、合繊、交織			街着、普通着用	館林、八王子、その他

り、小紋、お召等も柔らかい感じの色模様などがよいでしょう。晴れ着の中でも挨拶廻り、およばれの大小によっても程度の差があります。

絹物の中でも大島、紬は普段着といわれていましたが、柄等がおよばれにふさわしく華やかさがあれば晴れ着にもなります。総てやわらかい感じのものは晴れ着になります。特に気を配りたいのは晴れ着の裾廻しの色です。足元の色によって着物の気品を損ねることがありますから、裾模様に重点がおかれた訪問着などは同系統色で扱った方がよいのです。

V 装 い 方

1) 結 婚 式

結婚式に参列する時、母親、姉妹の既婚者は黒留袖、若い方なら中振袖で、はでな大振袖はさけた方がよいでしょう。扇子は金、銀、朱べりの小型、バックも布製の小型を用意します。親族の方は母親と同じようにします。上司の夫人としての参列には正装が普通ですが、友人代表の夫人としては略礼装でよいでしょう。略礼装は色模様、無地に抜き紋の一つか縫紋又は紋なしの訪問着に帯は格調のある袋帯か名古屋帯をしめます。紋付き羽織は婚礼の式服には使われませんが、母親として卒業式、入学式には重宝です。

2) 公式の招待

公式の招待には洋服の様にアフタヌーン、カクテル、イブニングと時間による区別は和服にはありませんが、イブニングの時には色留袖（黒地でない裾模様のこと）か、はなやかな訪問着、若い方なら振袖を、ランチやティーパーティーでしたら小紋か訪問着も自由な図柄がよろしいでしょう。羽織は道中だけで、会場へ入る時はぬぐ方がよいのです。（次号につづく）

（渡口 文子）